

**令和4年度
学校自己点検 評価報告書**

学校法人鴻池学院 鴻池学園高等専修学校

自己評価委員会

令和5年9月30日

1. 教育理念・目的・育成人材像

	評価項目	
1	理念・目的・育成人材像は定められているか	4
2	学校の特色はなにか	3
3	学校の将来構想を描き、3～5年程度先を見据えた中期的構想を抱いているか	3

点検の進捗度 4. 適切、 3. ほぼ適切、 2. やや不適切、 1. 不適切

(上記点検項目に関する現状と評価ならびに課題)

- 本校では、高等課程の基礎的教育と共に職業人としての専門教育を行い社会に貢献できる能力を養うことを目的としている。知識や技術を習得するだけでなく、一人一人の個性を尊重し感謝の心を持ちながら何事にも興味深く観察し、行動力や向上心を養い創造性のある感性を磨ける人材の育成をめざしている。
- 理念・目的・育成人材像を基に実践的な教育に重点をおいた専修学校教育と併せ、技能連携による高等学校普通科の単位取得を目指し、卒業後の多様な進路選択を可能にしている。本校で身に付けた技能に更に実力をつける為、進学を希望する生徒が増えている。大学全入時代に沿って指定校推薦、AO入試を利用した進学希望者がほとんどである。また、身に着けた技術及び資格を持っていることがAO入試の強みになっている。
- 本校では、長年の教育実績を持つ服飾・被服分野「ファッション科」と、近年注目される介護福祉分野を学ぶ「総合福祉科」、幅広い知識や技術を習得し、就職や進学に強い普通科の3科を設置。各コースともに各々の分野の専門知識や技術の習得を通じて人としての成長を図り、実社会への関心や適応力を高め、受身ではなく各自が自主的な将来の進路選択・決定に結びつけられるようなカリキュラムに特色がある。
- 令和4年度は、総合福祉科の生徒は介護職員初任者養成研修を5か月間で習得した。
- 令和2年度より開設した普通科は、浅く広い分野での資格取得を目的とし、総合福祉科の生徒と一緒に令和3年8月には移動支援従業者養成研修に参加している。
- 卒業後は、同一法人の鴻池生活科学専門学校「介護福祉学科」への進学も可能であり、より高度な専門知識と実践的技術を「高専接続」により継続的に学べる環境を提供し、介護福祉士国家資格取得やレクリエーションインストラクター等各種資格取得を目指すことができる。
- 中期的構想に関しては、ファッション科、総合福祉課、普通科として各コースの目的・目標・育成人材像について各分野の将来予測や進展を考慮した新たなカリキュラムに沿って、昨年同様現在取り組み中である。

2. 学校運営

	評価項目	
1	目的に沿った運営方針が策定されているか	4
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
4	人事や給与にかんする規定等は、整備されているか	4
5	教育・財務等の組織整備など意思決定システムは、整備されているか	4
6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3
8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

点検の進捗度 4. 適切、 3. ほぼ適切、 2. やや不適切、 1. 不適切

(上記点検項目に関する現状と評価ならびに課題)

- 専修学校高等課程における教育目的ならびに目標に基づき、学校運営方針は定められまたその方針に従い、組織体制の改編に伴って諸規定を随時整備している。
- 現状の学校運営方針や諸規定が現在の高等課程を取り巻く環境の変化に対応・適応できるよう、徐々に検討改善されているが、併願受験者は公立高校に全員合格するため、入学者数の減少や横ばいが運営にひびいている。今年度の編入生徒は、無かった。
- 教育目的ならびに目標を実現すべく年間事業計画を作成し、学校運営されている。数年後を見据えた教育方針へと改善途中段階である。
- 運営組織は、機能していると考え。毎月職員会議を行い、変更や改正等を役員会へ提案、策定後、運用が徐々に効率的に行えるように改善されている。意思決定機能については校務分掌に基づきながら、各分担が横断的に意思疎通を図ることにより効率的に行われている。
- 人事や給与の処遇に関する規定は定められており、規定どおりに運用されている。
- 意思決定システムについては、そのプロセスである会議は校務分掌に基づき制度化されている。
- 教育活動等に関する情報公開は、ホームページや学校案内、募集要項等で行っているが、ホームページについては、学校行事を載せて受験生がオープンキャンパスに参加したくなるようにその都度公開している。
- 情報システム化については出欠、成績管理、指導要領、住所等に関してなされおり、情報流出の内容行っている。

3. 教育活動

	評価項目	
1	教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
2	教育理念、育成人材や業界のニーズを踏まえた学科の就業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3
3	カリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発等が実施されているか	3
5	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
7	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
8	職業教育に対する外部関係者から評価を取りいれているか	3
9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務を含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3
13	関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成などの資質向上の為の取り組みが行われているか	3
14	教員の能力開発のための研修等が行われているか	3

点検の進捗度 4. 適切、 3. ほぼ適切、 2. やや不適切、 1. 不適切

(上記点検項目に関する現状と評価ならびに課題)

- 全教員が「年間カリキュラム表」を作成し、さらに月間行事予定、学年別行事予定に基づいた詳細なシラバスを作成している。自ら取り組むべき課題を明らかにし、年度末には課題の達成度を教務課で評価した後に、学校評価へと結びつけているため課題に到達されつつある。
- 各学科のカリキュラムは目標達成に向け、教務課を中心に現場教師の意見を吸い上げながら、必要かつ十分なカリキュラム編成体制を組んでいる。
- 育成目標に向け、高度な資格、技術だけでなく最近では精神的にナイーブな生徒が増えているので、生徒の目線で指導できる様に教員に伝え自覚させている。
- 無断欠席者には各担当者より登校するように連絡を取っている。出席日数及び単位数の足りない生徒には、進級、卒業できるように夏季、冬季、春季休暇に補習を行っている。また、徳風高等学校教諭による本校でのスクーリング欠席者は、徳風高等学校にて補習スクーリングを行っている。
- 成績評価・単位認定の基準は細則によって明確になっている。
- 学校評価及び授業評価等、教育活動の評価は「授業評価アンケート」に基づいて行われている。
- 学習面だけでなく、資格取得の受験料の免除や特別授業等の支援を行い、資格を持つことにより生徒のモチベーションを上げている。
- 資格取得は生徒達に目標達成感をもたらし、学習意欲の向上が見られる。正課授業の理解にも貢献するところが大きく、教育成課を生み出している。自主的に希望する生徒には、専門課程の学生が受験するような資格取得の範囲のサポートも行っている。
- 実学教育の一環として、法人内の鴻池生活科学専門学校と連携し、介護職員初任者養成研修や移動支援従業者の資格取得を奨励し就職に繋げている。
- 教員だけでなく事務職員も生徒の就職活動の援助が出来るように研修を受講している。

4. 教育成果

	評価項目	
1	就職率・進学率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	4
3	退学率の低減が図られているか	3
4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	4

点検の進捗度 4. 適切、 3. ほぼ適切、 2. やや不適切、 1. 不適切

(上記点検項目に関する現状と評価ならびに課題)

- 就職活動支援は、生徒の総合的なキャリア形成に寄与する組織として進路指導部及び担任が行っている。今後は多様な進路選択を可能にするため組織作りに努める。
- 就職に関する目標の内容とは就職指導・相談業務、就職先開拓に関する業務、資格取得講座の実施等を行っている。保護者に生徒の将来を見据えた資格取得の大切さを理解していただき、受験意欲が深まっている。受験料の負担の軽減の為、半額負担の支援を行っている。
- 就職活動を常時サポートし、コンピュータスキル、ビジネスマナーの個別指導等、社会人として必要なスキルとマインドを身に付けて卒業するように構成している。就職率は、ほぼ100%である。
- 本学のカリキュラムに親和的な資格・検定の受験を積極的に推進するため、学内において受験対策講座（洋裁技術検定、漢字検定）を開講し、準会場として検定試験を実施している。
- 在校生においては、多様な進路選択を対応するためにも、産学連携の方法を模索する予定である。また、ボランティア活動としても地域に密着するために総合教育の一環としての清掃活動を学校や駅周辺にて行っている。コロナ禍で現在は困難であるが、福祉コースの希望者には福祉施設でのボランティアの参加を奨励している。
- 複数の科目において欠席が多い生徒については退学等の懸念が加わるため、早期の3者面談等対応を行い生徒の学習意欲を修復することを目指している。授業料は国と府の支援により賄えることが出来ても不登校を理由とした退学者についてが、これからの課題である。
- 卒業後の社会的な活躍及び評価について把握している。引き続き卒業後のキャリア形成のサポートをより一層充実させ卒業生の社会的評価を高めていきたい。また、企業で責任者になっている卒業生からの就職の斡旋等、就職室との連携を進めている。
- 卒業後、現状報告の為、本校を訪ねて来る卒業生の数が年々増加している。
- 残念ながら大学や学校へ進学後退学となった卒業生が、本校で取得した資格（特に介護職員初任者養成研修）で就職しているケースが多い。

5. 学生支援

	評価項目	
1	就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか	4
2	学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	4
3	学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか	4
4	学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか	3
5	課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか	4
6	学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	3
7	保護者と適切に連携しているか	4
8	卒業生への支援体制はあるか	3
9	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	2
10	専門学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	4

点検の進捗度 4. 適切、 3. ほぼ適切、 2. やや不適切、 1. 不適切

(上記点検項目に関する現状と評価ならびに課題)

- 総合福祉科では、希望者で単位所得者に卒業時までには介護職員初任者養成研修や移動支援従業者養成研修を修了していることから、就職状況は安定している。また、住環境コーディネーター3級を取得する等、意欲のある生徒が増えてきた。
- ファッション科において洋裁技術検定やファッションビジネス検定取得者は、就職に有利な結果となっている。
- 普通科は、パソコン検定、移動支援従業者養成研修等、幅広く資格を取得し就職に繋げている。
- 就職情報・求人資料の整備をし、履歴書の書き方やマナー教育・面接・筆記試験などの就職対策を個別で行っている。
- 担任が保護者を交えて面談を行い、進路の希望に沿って、就職指導経験が豊富な教員、企業の採用実務に詳しい教員など、相談テーマに応じた相談員が対応している。
- メンタル面では、本校の教員が生徒の家庭状況や性格を熟知しているので対応している。また、専門課程には精神保健福祉士も在籍しているので、相談ができる。
- 特別な疾病や障がいのある生徒を支援する場合は、他の専門的・学生支援機関等と連携して就職に繋がれることができるように支援機関の体験実習が受けられるまで個別指導を行っている。こうした教育的・成長促進的支援を行うことが、これからの本校の重要課題となる。
- 進学についても大学や専門学校オープンキャンパスの参加を奨励し、各人の可能性を広げられるようにしている。生徒とその保護者との進学の方向性が異なる家庭に対しては、共通の理解が出来る様に根強く時間をかけて行っていきたい。
- 生徒相談に関する体制は担任や教科の教員がそれぞれの職務にそって適切な対応をとっている。
- 経済的支援は、大阪府学生支援機構などの各種奨学金制度の紹介と申請および学納金等の免除や分納制度による支援体制をとっている。
- 毎年5月に定期健診健康診断を実施し、異常がある生徒には個別に通知して再検査または精密検査の受診を薦めている。
- 保護者との連携体制は定期的に三者面談を行い、学校に来ることが出来ない保護者には、校内における活動状況を文書もしくは、口頭（電話）にて適時報告している。また、保護者からは家庭内の日常生活の状況を報告してもらえ体制作りを勧めている。
- 転職を希望している卒業生の相談は、本校にあるデータを使って再就職の紹介を行っている。
- 併設校の鴻池生活科学専門学校の教員により、3年生には専門課程のハイレベルな授業体験を行って、進学後も真摯な態度で高等教育機関に臨むことを理解させている。

6. 教育環境

	評価項目	
1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応出来るよう整備されているか	4
2	学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	2
3	防災に対する体制は整備されているか	3

点検の進捗度 4. 適切、 3. ほぼ適切、 2. やや不適切、 1. 不適切

(上記点検項目に関する現状と評価ならびに課題)

- 施設・設備については、計画的に行われている。今年度は、国の私立学校施設設備費補助金と設備費を利用してコロナ禍での安全対策を講じるため除菌機能を備えた空調設備を設置した。
- 学外実習については、毎年、福祉実習施設と保育所実習を社会福祉協議会に依頼しているが、本年度も昨年同様コロナ禍で中止となった。
- ファッション科においては、実施されていないのが今後の検討課題である。インターンシップ、海外研修については実施していない。
- 防災については防火責任者を配置。9月に地震避難訓練を行っている。半年ごとに防火消火設備の機器及び建物の点検を行っている。
- 水質検査も行っている。

7. 教育環境

	評価項目	
1	学生募集活動は適正に行われているか	3
2	生徒募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	2
3	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	4
4	学納金は妥当なものとなっているか	4

点検の進捗度 4. 適切、 3. ほぼ適切、 2. やや不適切、 1. 不適切

(上記点検項目に関する現状と評価ならびに課題)

- 中学生の不登校生が増加していく中、入学者一人ひとりの事をよく理解して受け入れ、育てることが専修学校の大きな務めとなっている。しかし、新入生の中には中学生の頃から不登校であり、心機一転して入学したが、友人となじめなく退学する生徒が1～2名いる。家庭と頻繁に連絡して担任だけでなく教職員全体で見守るが、残念な結果となっている。
- 学校案内には、各学年の授業内容や作成した作品を載せており、毎年適宜見直し・改良している。また、ホームページも本校職員でその都度学校行事の追加ができるように設定し、見やすくなってメールでの入学案内の請求も増えている。
- 8月～翌年1月の土曜日に随時希望者にオープンキャンパス（体験学習）を行っている。参加者は、2月の入試受験者に繋がっている。しかし、ここ数年受験者数が減少または横ばいの為渉外担当職員だけでなく、中学校の夏季休暇中、各担任教員による中学校を訪問し、生徒募集を兼ねて送ってくれた中学校には現在の生徒状況報告を行っている。
- 年々、入試受験者数が減少している。推薦入学の募集を平成29年度より取り入れ、受験科目は作文と面接さらに今年度より受験料だけでなく入学金の免除にしたが、入学者数は変化が、無かった。
- 少子化による15歳人口の減少、さらに高校への入学がいろんな面で容易になり、さらに、公立高校の授業料無償化や併願の受験生が公立高校を全員合格する事等々、高等専修学校の生徒募集に少なからずダメージを与えている。この状況の中で、入学生を確保するために、専修学校では多くの不登校生を受け入れている。今や専修学校は不登校から脱却を願う生徒や保護者にとって、万能薬であるとは決して言い切れないが、学習指導要領に縛られない技能教育によって学校で学ぶ喜びを自覚させていくことで、入学希望者が増えるよう努力している。
- 中学校で不登校であった生徒は、単位制高校への進学希望者が増えているのも高等専修学校への受験者が激減している原因でもある。
- 入学選考の方針・考え方として、筆記テスト（国語・数学）と面接があり、中学校から送られる資料は参考にするが、成績中心ではなく面接により適正を重視していることを中学校の進路指導担当教員に理解していただくように努めている。

- 在籍中学校から提供される資料（個人報告書、入学志願書、調査書等）や、入学試験の折りに本校で作成する資料（筆記テストの成績、面接試験の点数、面接を実施した時の資料）などは、外部に流出しないように保管している。
- 学納金は、高等学校等就学支援金（国）と私立高等学校等授業料支援補助金（大阪府）の制度を利用して、多くの生徒が高等学校の教育を学ぶことが出来るよう努めている。授業料の前納制を中止し、授業料の補助対象になっていない家庭のみ徴収している。補助対象外の家庭でも事情により希望された家庭には、分納を実施している。また、修学旅行等積立金の本人負担が経済的に困難な場合は、分納を提案している。
- 大阪府私学課より今年度から認められた教育充実費を今年度は、設置以来使用していた各教室の黒板をメディア等の授業に活用できる様にプロジェクター対応に改修工事費用に利用できた。

8. 財務

	評価項目	
1	中長期的に財務基盤は安定しているといえるか	2
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3
3	財務について会計監査が適正に行われているか	4
4	財務情報公開の体制整備はできているか	4

点検の進捗度 4. 適切、 3. ほぼ適切、 2. やや不適切、 1. 不適切

（上記点検項目に関する現状と評価ならびに課題）

- 現状においては、収入が減少しているが、収支のバランスが取れている。
- 中期的に財務基盤は現状安定しているが、長期的な安定は、これからの社会情勢に対応できるよう他校にはない新たな特色作り、魅力作りによる集客力の向上が必要である。
- 予算・収支は計画に従って有効なものとなっている。
- 財務監査については、公認会計士監査法人により厳正かつ適正に行われている。
- 私立学校法による財務情報公開は、本校ホームページにおいて公開されている。

9. 法令等の遵守

	評価項目	
1	法令、設置基準等の遵守と適正な運営が行われているか	4
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3
4	自己評価を公開しているか	4

点検の進捗度 4. 適切、 3. ほぼ適切、 2. やや不適切、 1. 不適切

(上記点検項目に関する現状と評価ならびに課題)

- 法令、専修学校設置基準に照らし、適正な学校運営が行われているものとする。
- 入学志願者、在校生、卒業生および教職員等の学校が保有管理する個人情報に関しては、その保護や開示について規定が設けられている。
- 個人情報保護体制については教職員全体で検討し、体制の強化に努めている。入学案内に生徒の授業風景や作品を載せているので、必ず本人に確認を取っている。
- 平成22年度より学校自己点検・評価への取り組みの為、学校評価委員会による検証が行われ問題点の見直しや改善を行っている。次年度以降も引き続きガイドライン等にて毎年見直しを行い、平成22年度より本校ホームページにおいて公開している。
- 学校関係者評価委員会の開催し、関係者からの意見や助言を真摯に受け止めて授業内容、生徒募集を充実できるような体制作りを行う。

10. 社会貢献・地域貢献

	評価項目	
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献が、おこなわれているか	3
2	生徒のボランティア活動を奨励・支援しているか	4
3	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練を含む）の受託等を積極的に実施しているか	2

点検の進捗度 4. 適切、 3. ほぼ適切、 2. やや不適切、 1. 不適切

（上記点検項目に関する現状と評価ならびに課題）

- 法人全体としては、校舎及び駐車場を選挙会場として地域に活用している。
- 高齢者介護施設等より毎年夏と秋にボランティアの依頼があったが、コロナ禍で全く無くなってしまったのでレクリエーション授業の一環として範囲を広げて、鴻池新田駅周辺等のゴミ収集を行ってボランティア活動を行っている。
- 公共職業訓練の応募は、毎年専門課程で行っているが、入札で採用されない結果となっている。今後も努力を続けたい。

鴻池学園高等専修学校

令和4年度 学校生活についてのアンケート(令和5年2月実施)

46 人中 44 人分の集計 (回収率 96%)

1. 学校生活について	はい					どちらでもない					いいえ				
	1年	2年	3年	計	%	1年	2年	3年	計	%	1年	2年	3年	計	%
a 学校生活は充実している	12	8	16	36	82%	4	1	3	8	18%	0	0	0	0	0%
b 学校は楽しい	12	5	14	31	70%	3	3	5	11	25%	1	1	0	2	5%
c クラスは明るく雰囲気が良い	9	8	13	30	68%	6	1	3	10	23%	1	0	3	4	9%
d 気軽に相談できる先生がいる	12	8	17	37	84%	3	1	2	6	14%	1	0	0	1	2%
e 学校に誇りを持っている	11	6	13	30	68%	2	2	5	9	20%	3	1	1	5	11%
f 学校行事は充実している	13	8	15	36	82%	2	1	4	7	16%	1	0	0	1	2%
g 学習環境は整っている	10	6	11	27	61%	5	3	6	14	32%	1	0	2	3	7%
2. 学習について															
h 授業はわかりやすい	9	4	13	26	59%	5	3	6	14	32%	2	2	0	4	9%
i 各授業の目標は明確である	9	3	13	25	57%	5	6	6	17	39%	2	0	0	2	5%
j 気軽に質問できる先生がいる	12	7	16	35	80%	4	1	3	8	18%	0	1	0	1	2%
k 学校行事は充実している	12	6	17	35	80%	4	2	2	8	18%	0	1	0	1	2%
3. 友人関係について															
l 校内に仲の良い友達がいる	14	8	18	40	91%	2	1	1	4	9%	0	0	0	0	0%
m 気軽に相談できる友達がいる	14	7	18	39	89%	1	2	1	4	9%	1	0	0	1	2%
n 仲間はずれにされている	1	0	4	5	11%	3	2	2	7	16%	12	7	13	32	73%
o 故意にぶつかる、叩く、蹴るなどされている	1	0	1	2	5%	2	1	1	4	9%	13	8	16	37	84%
p お金、物品を持ってこいと言われている	1	0	0	1	2%	1	1	2	4	9%	14	8	17	39	89%
q 自分の持ち物を隠されたり壊されている	1	0	0	1	2%	1	1	1	3	7%	14	8	18	40	91%
r 嫌な事、恥ずかしい事を強要されている	1	0	0	1	2%	1	2	1	4	9%	14	7	18	39	89%
s メールなどで悪口を書かれている	1	0	0	1	2%	2	1	1	4	9%	13	8	18	39	89%
t 集団から無視されている	1	0	0	1	2%	2	2	2	6	14%	13	7	17	37	84%
u 校内に友達がいない	2	0	0	2	5%	0	1	2	3	7%	14	8	17	39	89%

鴻池学園高等専修学校

令和4年度 学校評価 保護者アンケート(令和5年2月実施)

46 人中 29 人分の集計 (回収率 63%)

【学校運営】						回答数			%		
	そう思う	やや そう思う	あまり 思わない	まったく 思わない	答えない	肯定的	否定的	どちらでも ない	肯定的	否定的	どちらでも ない
1 学校は、教育目標・教育方針を分かりやすく伝えている	15	13	1	0	0	28	1	0	97%	3%	0%
2 学校は、授業や行事等を参観する機会を適切に設けている	16	11	2	0	0	27	2	0	93%	7%	0%
3 学校は、施設・設備の整備に努め、安全で整った教育環境を作っている	13	15	0	1	0	28	1	0	97%	3%	0%
4 学校は、生徒や保護者の個人情報適切に取り扱っている	17	12	0	0	0	29	0	0	100%	0%	0%
5 学校は、学校情報の開示を適切に行っている	18	9	2	0	0	27	2	0	93%	7%	0%
【学習評価】											
6 学校は、子どもの良いところや努力を適切に評価している	16	13	0	0	0	29	0	0	100%	0%	0%
7 学校は、子どもの学習の評価について、生徒や保護者に分かりやすく示している	15	13	1	0	0	28	1	0	97%	3%	0%
8 学校は、子どもの学力や学習の様子を適切に評価している	18	11	0	0	0	29	0	0	100%	0%	0%
9 学校は、指導方法や教材等を工夫して、分かりやすい授業づくりに努めている	12	16	1	0	0	28	1	0	97%	3%	0%
10 子どもは、学校の授業内容を理解している	7	20	2	0	0	27	2	0	93%	7%	0%
【生徒指導】											
11 学校は、挨拶やルール、マナー等、社会に適用する指導を行っている	14	15	0	0	0	29	0	0	100%	0%	0%
12 学校は、いじめや悪い行動に対して適切に指導している	13	12	4	0	0	25	4	0	86%	14%	0%
13 学校は、子どもの話をよく聞いてくれている	16	13	0	0	0	29	0	0	100%	0%	0%
14 学校は、厳しさの中にもやさしさのある生活指導をしている	15	14	0	0	0	29	0	0	100%	0%	0%
15 学校は、職業や進路についての適切な指導や情報提供を行っている	16	10	3	0	0	26	3	0	90%	10%	0%
【その他】											
16 子どもは、伸び伸び、安心して学校生活を送ることができている	16	11	2	0	0	27	2	0	93%	7%	0%
17 子どもは、家で学校でのことをよく話している	12	8	9	0	0	20	9	0	69%	31%	0%
18 子どもは、学校に行くのを楽しみにしている	13	13	3	0	0	26	3	0	90%	10%	0%

保護者アンケート集計結果について

1. 本校の教育活動に対して概ねご理解いただき、ご協力・支援を賜っています。
2. 生徒が学校での出来事をご家族に伝えていることがわかります。
3. 学習や学校生活での生徒の悩み相談等について、こちらからも学校と家庭が連携して取り組んでいきます。